

上尾歴史散歩

269

市制施行55周年特別企画

上尾サイクル紀行 ⑤

中分～鴨川沿いを下る

「上尾サイクルマップ」で訪ねる郷土の歴史

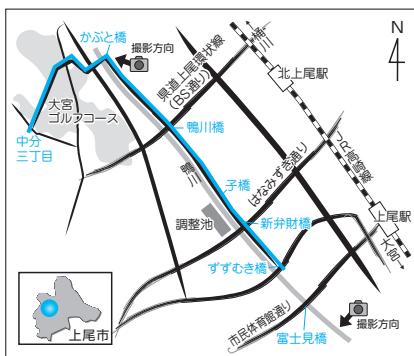


かぶと橋(井戸木四丁目)

中分三丁目の信号からゴルフ場の間を東側に抜け井戸木に出ると、かぶと橋の所で地下水が投入され、突然鴨川が姿を現す。上流は暗渠であり、源流地点は1・5キロほど北の桶川市民ホール付近である。鴨川源流域と書かれた碑が桶川市若宮交差点の市民ホール側にある。碑の裏面には「鴨川の源流地は、沼田谷と称する沼や、その付近の湿地帯とする説や、この近くの林からの湧出水とするなどの諸説があります。この地を中心とした五百米程の地域が水源となっており、とあつた。サイクリングコースは、かぶと橋から、四月号で登場した富士見橋の一つ上流にあるずずむき橋までの2・4キロ

の区間である。「鴨川」と言えば、BS通りの鴨川橋(一級河川起点)から、はなみずき通りの新弁財橋までの1・2キロを活動区間とする「鴨川水辺のサポーターの会」の活動は実に素晴らしい、会報(No.1〜9)を今回の取材で参考にした。上流の小魚と川底が見える流れは、川底に小石こそないが田舎の小川を思い出させてくれる。私が上尾に住んで半年後の昭和四十一年六月に、富士見一丁目にあった建物の五階屋上から鴨川の大洪水の写真を撮影した。山育ちで山崩れは何度か目にしたが、大洪水は初めてで驚いたからである。今回の取材で、写真にある二階建ての家に住んでいた方にもお会いして、当時のことを懐かしくお聞きすることもできた。

会報を参考に、鴨川の流れの標高差を調べたところ、源流から富士見親水公園(四月号で紹介)までの4・3キロの区間で標高差は11メートルに及ぶのに対し、その下流は国道十六号の第二鴨川橋(さいたま市)までの4・2キロ区間で標高差



がわずか1メートルであり、洪水が起きた理由がうかがえた。最近では、子橋(新弁財橋)間の鴨川西岸に、小泉地区の都市化を象徴するかのような巨大な調整池が完成した。次号は、いよいよ西コースのゴール、上尾駅西口を目指す。(ぐるっとサイクリング同好会・川島一郎)



鴨川の洪水(昭和41年6月撮影)



アッピーを探そう!

右のアッピーが登場するのは? ページ



【賞品】 正解者の中から抽選で5人に、粗品を差し上げます。

【応募方法】 はがきかメールにクイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、『広報あげお』の感想を記入して、8月20日(火)まで(必着)に上尾市広報課「わくわくクイズ係」へ。

あて先: 〒362-8501本町3-1-1
メールアドレス: s55000@city.ageo.lg.jp

【発表】 賞品の発送をもって発表に代えさせていただきます。 ※正解は9月号のこのコーナーで。前号の答えは「2」でした。ご応募ありがとうございました(応募者49人)。

市の人口・世帯

(平成25年7月1日現在)

22万7,937人

男/11万3,623人

女/11万4,314人

※前月より9人増。

9万5,006世帯

◆「広報あげお」は、各支所・出張所、JR上尾駅・北上尾駅の他、市内の各公共施設、金融機関などに置いてあり、自由に持ち帰れます。
◆環境保全のため、市内の公共施設へのお出掛けは市内循環バス「ぐるっとくん」を利用してください。



本紙は、再生紙を使用しております。